

神に殺されたモーゼ

2012・3・3

旧約聖書／申命記 32章。

48節 主はモーゼに告げて仰せられた。

50節 あなたの兄弟アロンがホル山で死んでその民に加えられたように、
あなたもこれから登るその山で死に、あなたの民に加えられよ。

51節 あなたがたがツインの荒野のメリバテ・カデシュの水のほとりで、イスラエル人の中で、
わたしに対して不信の罪を犯し、わたしの神聖さをイスラエル人の中に現わさなかつたからである。

52節 あなたは、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている地を、はるかにながめる
ことはできるが、その地へは行って行くことはできない。

旧約聖書／申命記 34章。

4節 そして主は彼に仰せられた。わたしが、アブラハム、イサク、ヤコブに、
『あなたの子孫に与えよう』と言って誓った地はこれである。
わたしはこれをあなたの目に見せたが、あなたはそこへ渡って行くことはできない。

5節 こうして主の命令によって、主のしもべモーゼは、モアブの地のその所で死んだ。

旧約聖書／民数記 20章。

12節 主はモーゼとアロンに言われた。

「あなたがたはわたしを信ぜず、わたしをイスラエルの人々の前に聖なる者としなかつた。それゆえ、あなたがたは、この集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない」

註 モーゼの死については、上記の通り、旧約聖書／申命記 32章・48・50・51・52節 及び、
旧約聖書／民数記 20章 12節 に出ています。民数記は所謂『メリバの水事件』です。

● モーゼの『死』にいたる『罪』。

- 1 コラの事件(民数記 16・17) - 下級祭司レビと祭司アロンの間で祭儀権の争い。
- 2 アロンの杖 - 12部族間での大祭司の優位性の実証(民数記 17)。
- 3 メリバの水事件(民数記 20) - 民の反抗とモーゼの罪(民数記 20・2～13)
- 4 外敵との交渉と戦い(民数記 20・14～24・25)。
- 5 呪術者バラムがイスラエルを呪うが、失敗(民数記 22～24)。
- 6 青銅の蛇事件(民数記 21・4～9) - 偶像信仰の名残。
- 7 ペオル・ゴスビ事件(民数記 25) - 国際結婚に神の怒り。

● 何故、偉大な預言者モーゼを『罪人』としたのか？ 何故、『殺した』のか!!。

モーゼは神と出会った最高の聖なる人であり、律法の制定者です。その教祖モーゼが罪を犯し、罰せられるなど、まともな宗教ではありえません。

これは、モーゼの偶像化、神格化の拒否・否定です。十戒のうち、最も遵守出来なかった、偶像崇拜の危険を防ぐためです。このため祭司P文書を編集した祭司は、あえてモーゼにも罪ありと書き加えたのです。実に恐るべきモーゼ五書の律法遵守精神です。

その代わり大祭司がモーゼと同等かそれ以上の最高権威を持ったのです(集会の書 45・6～17、50・1～21 参照)。金の子牛事件(出 32章)も、モーゼのカリスマに頼る危険を暗示しています。また、モーゼの墓の所在を不明として(申命記 34・6)その石像化(偶像化)を防止しています。最高の聖人であるモーゼの墓さえ不明です。徹底した偶像拒否です。神以外は全て相対化しているのが旧約聖書の全体像で実に忌むべき唯一神思想なのです。これが、モーゼをして『罪人』とし、『殺した』旧約聖書＝悪魔の聖書の実態です。